allcinema

ぼくの伯父さん（1958）

MON ONCLE

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 フランス／イタリア
色彩 Color
時間 120分
初公開日 1958/12/23
公開情報 新外映

【解説】

タチの永遠のキャラクター“ユロ氏”を本邦に初紹介し、その独創性は他に類を見ない（あえて言えば、チャップリンとその模倣であるルネ・クレールの作品世界と相通じるのだが、にしても、どこか一皮むけている）、ただ“喜劇”と呼んでしまうのもためらわれる、フィルムによる軽快なシャンソンの趣きの映画。四コマ漫画集を映画で見ているのに近い感覚と言ってもいいかも知れない。プラスティック工場（フル・オートメ化されており、当然のごとく「モダン・タイムス」＝「自由を我等に」的描写がある）のオーナー社長（Ｊ＝Ｐ・ゾラ）の超モダンな邸宅をその息子（Ａ・ベクール）は全く気に入っておらず、度々、父の兄である伯父さんの住む下町のアパルトマンを訪ねる（この建物の場面の演出も思い切り良く、断面図の構造の中のユロ氏の動きを軽妙に見せるのだ）。両親は息子を取られたようで面白くなく、独身の伯父さんに嫁を押しつけるべくパーティを催すが、これを無意識に彼がぶち壊しにしてしまうのは言わずもがな。社長は兄に社会性を備えさせようと自分の工場に雇うが、ここでも失敗ばかりの彼は奇妙なプラスティック製のパイプを大量生産してしまう。呆れた社長はこの暢気な兄貴を地方支店に転任させることにしたが、これにも飄然と応じて伯父さんは懐かしの町を去って行くのだった……。犬の使い方など見事なもので、ふんわりと詩情の漂う、タチの人生讃歌。カンヌ審査員特別賞、アカデミー外国語映画賞を受賞。

【クレジット】

監督	ジャック・タチ	Jacques Tati	
製作	ジャック・タチ	Jacques Tati	
脚本	ジャック・タチ	Jacques Tati	
	ジャック・ラグランジュ	Jacques Lagrange	
台詞	ジャック・タチ	Jacques Tati	
撮影	ジャン・ブールゴワン	Jean Bourgoin	
編集	シュザンヌ・バロン	Suzanne Baron	
音楽	アラン・ロマン	Alain Romans	
	フランク・バルチェッリーニ	Franck Barcellini	
出演	ジャック・タチ	Jacques Tati	ユロ伯父さん
	アラン・ベクール	Alain Becourt	ジェラール・アルペル
	ジャン＝ピエール・ゾラ	Jean-Pierre Zola	シャルル・アルペル
	ドミニク・マリ	Dominique Marie	アルペル家の隣人
	アドリアンヌ・セルヴァンティ	Adrienne Servantie	アルペル夫人
	ルシアン・フレジス	Lucien Fregis	ピシャール
	ベティ・シュナイダー	Betty Schneider	ベティ
	ジャン＝フランソワ・マルシャル	Jean-Francois Martial	ウォルター

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

イヴォンヌ・アルノー　Yvonne Arnaud　ジョルジェット

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.